

PUPA

2000
11
Vol. 6

生活情報誌 : 美しい川と水を取り戻そう



関西ダイアパーリース協同組合

美しい川と水を取り戻そう

空気と水はいつでも何の心配もなく手に入ると思っていた私達も、自然のきれいな水はもはや容易に手に入らないと最近になってはじめて気が付いたのです。そしてそんなきれいな水を得るためには、大変な代償を払わなければならぬことにやっと気付きはじめたのです。

水とのかかわり

私達の生活に水は欠かすことができません。私達の身体の三分の二は水分でできています。通常一日に2〜3リットルの水を必要とします。ですから食べ物だけでなく水さえあれば、かなりの間生きていけることができますが、水がなければたちまち死に至ります。そのように大切な水ですが、いま私達は安心して飲むことのできる水が本当に得られているのでしょうか？

昔と違って現在は、きれいな地下水を飲料水にする

ことはできなくなってきました。ほとんどは上水道を利用していますが、都市の上水道のほとんどは汚れた河の水を取り入れて、それをろ過し、殺菌消毒して水道水として供給されています。

そのため、取り入れる水質によってはカルキ（塩素殺菌）臭が強くそのまま飲むには抵抗を感じますし、そのまま調理に用いると本当の味が損なわれてしまいます。そのため浄水器とかミネラルウォーターが商品化されて大変売れているのは御存じのとおりです。

しかしいくらろ過し、殺菌消毒しても、水に溶け込んでいる有害物質や有害な重金属類を全て除去出来るわけではないです。

浄水処理

日本は水道の蛇口から出る水を飲める世界でも数少ない国ですが、「安全な水」を得るのも困難な時代が到来しています。

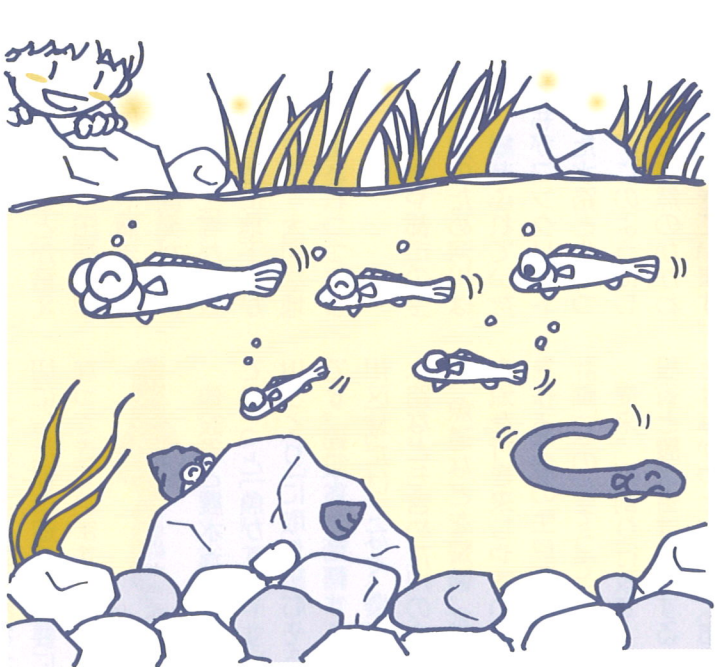
私達の身体の中でどんな影響を与えているのでしょうか？ 考え込むと、とても心配になる点です。

従来の浄水処理方法は、まず原水に塩素を混入し殺菌・除臭等の処理を行い、その後、凝集・沈殿、砂によるろ過、もう一度塩素による消毒を行います。

すでに日本では、昔のままのきれいな川は、四国の四十万川だけだと言われています。昔は川の水はきれいで、魚がたくさん泳いでいました。夏には私達も川で泳ぎました。今はそんな川は見当たりません。都市開発により川はコンクリートの水路に変わり、生活汚水や工場廃水が流れ込み、魚も住めなくなってきました。

現在、塩素にかわり、オゾンによる殺菌・脱臭を行う方法が注目を集めています。オゾンは酸素原子三つからなる気体です。強力な酸化力をもつことから、脱臭・脱色、有機物の酸化分解等に優れています。

オゾンを使用した場合、水のかび臭さがなく、さらに前段階で塩素処理を行わないため、有害なトリハロメタンの生成量を従来の三分の一におさえられるなど環境にもやさしいのです。オゾン処理以外で注目さ



防止が必要なのです。

そしてコンクリートの護岸や工作物の除去が必要です。それだけでも自然は、かなり戻ってくるように思えます。

「春の小川は、さらさら行くよ」と小学生の歌声がびくよな、人に優しい自然の景観を取り戻して欲しいのです。

小川や田んぼから、メダカやドジョウ、タニシなどを見かけなくなってきたから

しいですね。それもそのはず、メダカやドジョウが絶滅種に指定されると言うのです。

新聞報道によれば、建設省が調査した全国の一級河川109水系のうち、実に70水系で環境ホルモンによる汚染が検出されたそうです。

一級河川とえば、その多くの河川から飲料用の水道水のための取水を行っており、環境ホルモンによる

汚染は、直接私たちの健康に影響を及ぼします。またこれらの河川の水は海に流れこみ、世界中に汚染を広げてしまいます。

一級河川の汚染は、避けばそこに流れこむ二級河川や工場廃水、あるいは農薬で汚染された農業用水、ゴルフ場の芝生の消毒剤や着色剤を含んだ雨水に問題があるのかもしれない。

水田に用いられる除草剤により、オタマジャクシやドジョウやメダカが姿を消し、その水が流れこむ川から魚の姿が消えました。夏の風物詩のホタルも飛ばなくなりました。

果物や野菜も、例外無く農薬が多く使われていますし、加工食品には着色剤や防腐剤、保存料に化学薬品が用いられています。安全なものは何処にも無いようです。

科学の進歩は、人間の生活を豊かにするものですが、地球と言う限られた環境の中では、人間だけが特別なものではありませんし、環境の破壊は、結局人間の生

れているのは「膜」による分離処理です。膜ろ過法は、施設が単純化され、用地面積が大幅に節減されます。また、懸濁物質や細菌類の除去等に卓越した効果があるなどの利点もあります。

排水処理

日本は、水資源に恵まれた国ではありませんが、河川が短く、湖沼・内湾が多いため、水質汚濁が起こりやすいのです。過去、工業の急速な発展により公害等の様々な問題が生じました。

しかし、排水処理技術の進歩によって、工場・事業場からの排水は、できるだけ環境に負荷がかからないようになっています。

工場排水等の処理システムには、「生物処理法」と「物理化学処理法」があります。現在有機系排水や下水の処理に広く用いられているのは生物処理法です。

これは自然による水の自浄作用を応用したものです。微生物が本来もつ分解能力や代謝反応を効率よく進行させるものであり「活性汚泥法」や「生物膜法」等があります。

活や生命を脅かすことになってしまいます。

昔から国を治めるに重要なことの一つに、治山治水と言って河川の氾濫を防ぐためには、先ず山に木を植えて雨水が一時に川に流出しないように、そして地下に浸透させて地下水として供給するようにすることが聞いています。また川の両岸には竹林や松の木等を植林し、洪水時の護岸の役割を果たすように考えられたとも聞いています。

現代でも同じことが言えます。山を削り、田畑を埋めて、更には川や海までも埋め立てて都市開発が進められています。工場が誘致され、そのために地下水が汲み上げられて、大切な地下水脈が枯渇されつつあります。

また工場廃水や都市の生活排水の増加のため河川は拡張され、緑あふれていた堤防までもがコンクリートで固められた水路と化しつつあります。このようにして人と水との自然のかかわりが阻害されてきています。

大変残念なことです。

山は雨水を蓄える能力を失い、また雨水の貯留池の役割を果たしてきた田畑も次第に少なくなり、あまつさえ野道までも舗装されて、雨水が地下に浸透し自然浄化されてきれいな地下水が作られるシステムまでもが次第に破壊されてきています。

都市公園に形ばかりの緑地が造られたからといって自然の緑とは程遠いものです。今こそ本当の自然を大切にしたい都市造りが必要になってきています。

魚道のある川づくり

建設省と農水省が連携して、やっと「魚がすみやすい川づくり」に取り組むそうです。建設省が管轄する河川区域だけでなく、農業用水路なども含めた川の全域で、魚道などを整備、本流・支流を行き来しやすい環境を作る「魚の生息環境回復計画」なのだそうです。

従来、縦割り行政で、建設省と農水省は協同するとはなかったわけで（市役

ビオトープ

ビオトープとは、元来そこにあつた自然の風景を復元、もしくは創造することをいいます。

具体的には、湿地や池を再生・創造する。人工的に整備された河川をより自然に近い形にする。石垣や丸太積みなどを動植物の繁殖の場として確保する。建築物の壁面や屋上を緑化するなどの方法があります。

またこれら以外でも、すでにある都市公園や河川敷などの様々な緑地、都市の中にある農地、寺社にある樹木なども、「生物の生活の場や移動のための足がかり」として、ビオトープの役割を果たしています。

ビオトープ発祥の地、ド

イツでは1970年代後半から取り組みがなされてきました。日本でも10年ほど前から注目を集めはじめました。

現在、建設省土木研究所がビオトープづくりの技術マニュアルの作成を進めているほか、環境教育の一環として、校庭に川や池、丘や林などをつくる「学校ビオトープ」に取り組む学校も全国的に増えてきているようです。

今後、ビオトープの効果をより有効に発揮させるためには、個別単位で保全や再生を行うだけではなく、広く地域全体で生物の多様性の保全を目的として取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

所でも建設課、道路課、水道課などにまたがる問題はなかなか話が通りにくいのです。少しは風通しを良くしようとする努力しているのは歓迎すべきでしょうか？

河川の整備は、何も魚だけではなく、私達住民のこ

ミュニケーションの場として、あるいは子供達の自然の学習の場として大切なことだと思えます。

一人一人が愛の心を自覚めさせなければ、やはり、明るい21世紀は迎えられませんが。

河川や海の汚れの70%は生活排水による

いま、我々がすべきことは、そうした事実を一人一人が認識して、身近な小さなことから努力すべきではないでしょうか。

例えば、トイレでは水を二度流さないとか、油を家庭排水として流さないという個人レベルの行動なのです。

河川や海の汚れの70%は

生活排水によるものだと言われています。し尿は未処理で排水することは禁じられていますが、生活排水に関しては何の規制もありません。そのまま河川や海に流れているのです。

500ccの使用済みの天ぷら油をそのまま捨てると、魚が住める水質にするためにはお風呂330杯分の水が必要になります。

油を固めて捨てる製品を利用したり、新聞紙やボロ

布に染み込ませて可燃ゴミとして出すようにしましょう。また使い古しのストッキングなどで生ゴミストッパーを作るなど、排水溝に生ゴミなどが流れないようにしましょう。

便利さを我慢して、さらに環境を良くするための費用をそれぞれが負担し合っではじめて、少しづつですが自然を取り戻せる可能性があるのです。空気とか水のように、い

つでも容易に得られると思っている私達は、そんなことにお金を出したり、便利さを我慢したりすることはなかなか出来ないでしょう。でも、日々の生活を「環境」という視点から見

直しをし、環境のことを考えて行動する人になりたいものです。そこから、我々人間と水との共存が始まるのです。我々一人一人が汚してしまった川を美しくもとの姿に戻すために……。

おむつ洗いについて

おしっこ用、うんち用、おむつカパー用の三つのバケツを用意します。もちろん臭い防止にフタ付き。おしっこ用には予洗用洗剤を入れ、うんち用には漂白剤、おむつかパー用には洗濯ネットを入れます。洗濯時には、この三つを合わせて洗剤を入れスイッチオン！

☆洗濯のコツ

- ◆うんちは先ずトイレに流す。ライナーを敷いておくと簡単。
- ◆おしっこも夏場など臭いの原因になるため、一度水洗いをしておくと良い。
- ◆洗剤は質の良いものを、環境面を考慮して。
- ◆すすぎは十分に。

☆洗濯干しのコツ

- ◆よくしわを伸ばすこと。
- ◆干すとき縫い目が上、または下になるように。
- ◆できる限り、日光消毒を兼ねて外で干す。

★洗剤選び◇無リン洗剤を使う◇

ほとんどの合成洗剤に含まれるリン酸塩は、大量に川や湖に流れるとそれが養分となって藻が大量に発生します。そしてその藻が死滅すると、腐食させるため（分解するため）にバクテリアが水中の酸素を使いきってしまい他の生物が生きていけません。その結果として川や湖が死んでしまうのです。

ここで注意すべきことは、洗剤中

のリン酸は表示で「リン酸塩としてリンを8%含有」とある場合、リン酸そのものはその3倍の24%は含まれていることとなります。

日本では粉末洗剤、液体洗剤ともに現在は「無リン」となっています。私達はその使用量を確認に守ることを実施しましょう。洗剤を多く使っても効果は変わりません。多すぎる洗剤の量は洗剤、すすぎのための水の時間のムダになります。また、すすぎはある程度すすぐと多少泡が残っていても心配は要りません。

○布おむつの洗濯は専門業者・関西ダイヤパピーズ協同組合（☎078・242・7991）を利用していただく方法もございます。

おむつにサヨナラ

トイレ・トレーニングを考えているママ、パパへ
無理のないトレーニングのためのアドバイス情報
トイレ・トレーニングを始めようと思ったときに
参考になさってください。



トイレ・トレーニングは、お子さん自身が「おしっこやうんちをしたい」という感じをつかんで、自分でトイレに行って出来るようになることです。

大人の都合ではなく

お子さんの成長に合わせる

トレーニングをする頃のお子さんは、「おしっこしたい」とまだ上手に伝えることが出来ません。親子でコミュニケーションを図りながらゆっくりと進めていくことがポイントです。

スタートの目安として

「暖かくなったので」「二歳になったので」「周囲の同じ月齢の子がスタートし

たので」あるいは終わりの目標を立て「入園に間に合うように」といった理由がよく挙げられますが、あまり適切ではありません。

なぜなら子どもの成長・

発達は個人差が大きいものです。他のお子さんに合わせたり競争心からスタートしてしまうと、無理強いすることになりかねません。

大人の都合ではなく、お子さんの成長に合わせてスタートしてください。それがゴールへの近道です。

トレーニングを始めるポ

イントは「おしっこしたい」と感じる事が出来るまで、身体の機能が成長していること。十分に、タイミングを見はからいましょう。

赤ちゃんの頃、おしっこ

がすぐに出てしまうのは、おしっこを溜めておく膀胱が小さいし、溜める力が幼いから、少し溜まると反射的に出てしまうのです。

成長してくると、大脳か

ら膀胱へ「おしっこを溜めておこう」「おしっこ出して」と伝えられるようになり、トイレやおまるまで、

おしっこをちゃんと我慢出来るようになるのです。

いつスタートしようかし

ら?と問い始めたら、お子さんのからだの仕組みがトレーニングを始められる状態までに成長しているかどうかを確認してみましょう。

チェック①

ひとりですぐに歩ける。

チェック②

ママのいうことが理解でき簡単な受け答えができる。

チェック③

おしっこの間隔が二時間ぐらいいく。

おしっこをする「前」「している最中」「した後」あるいは「したそうな時」にみられる、お子さん特有のしぐさや言葉・行動をトレーニングを始める前からよく観察してください。

「おしっこが出るって気持ちいいことなんだ」ということを伝えるために、おむつ替えの時の「さっぱりしたね」などの声かけも忘れないでください。

お尻が濡れた感じ って必要なの?

「おむつの中でおしっこを

してお尻が気持ち悪いと感じるようになる、トイレでおしっこをするようになるよ」と言う人もいますが「濡れて気持ち悪い感覚は」おしっこの自立には直接関係はありません。

出る前に「おしっこ」と伝えられるようになることが大切なのです。大脳が発達し、膀胱におしっこが溜まったことを伝達する仕組みが整っていることが必要です。

だからと言って、濡れたまま放っておいてもいいというわけではありません。まだ、おしっこが溜まった感じや、おしっこをした感じが分からないうちに濡れた感じを無理に与えてもよいことはありません。ムレやかぶれの原因になるだけです。

紙おむつは、おしっこした時にお尻が濡れず、かぶれにくいように大変吸収のよい素材を使っています。布おむつと比べると、お尻が濡れた不快感を感じにくく、「お尻が濡れた」と自覚して伝えることが少ない

ため、おしっこの予告や自立が遅れると思われるかもしれません。しかし、濡れた感じの自覚とおしっこを予告する能力の芽生えには、因果関係がないことが分かっています。

紙おむつを続けて使ったからと言って、おむつ離れが遅くなるということはありません。

スタートの目安は、お子さんの成長度合い

おしっこの間隔が長くなり、おしっこがしたそうなくぐさをするなど、日頃のお子さんの様子から時期がわかります。また薄着なので衣服の着脱がしやすい、洗濯が冬より楽、といった理由から、夏のトレーニング開始が推奨されたことがあります。でも季節とは関係なく「おしっこを出して」という情報を伝達できる段階までに発達した時が始め時なのです。

今は冬でも部屋は暖房で暖かく、それほど厚着はしません。また、寒い間は外遊びを控えて家にいる時間が長くなるので、落着いて

トレーニングが出来たという声も聞かれます。季節によるトレーニングのしやすさの差は、余りなくなってきたと言えます。

心も身体も成長しているのに相変わらずおむつをしていると、おむつをしている状態が身体になじんで、おむつを外すと不安になって、おしっこが出来なくなるお子さんもいるのです。

あせる必要はありませんが、二歳半から三歳の間には、スタートして様子を見てみましょう。

皆が出来るように なったきっかけは？

最初のうち、間に合わないのは当然のこと。だから叱ったり「ダメね」などと傷つくことは言わないでください。

スムーズにトイレに行けるようにして、自信をつけてあげるといいですね。衣服を脱ぐのに手間取って失敗しがちな時は、脱ぎやすい服装にして、普段から着替への練習をするのもいいことでしょう。

誰だって、誉められると

嬉しくなって、やる気が出てくるもの。おしっこのシャーツという音に興味を持ったり、水を流す面白さを発見したのがきっかけ、という場合もあります。

お子さんによって、興味の持ち方やきっかけは様々ですが、自分からやりたい気持ち芽生えるような方向に持っていけるといいですね。

トレーニングで学ぶのはお子さん自身、それをサポートするのが、お子さんのことを一番よく知っているママ、パパの役目です。

トレーニングの進み具合は、お子さんの成長度合いによって異なります。個人差が大きいのでお子さんの様子をよく観察して、声かけしていくことが大切です。さあ、親子ともにストレスをためずに、あなたとお子さんに合ったやり方で楽しく進めていきましょう。

【参考】花王生活文化研究所ホームページ/トイレ・トレーニングアドバイザー情報より

厚生省認可環第608号
全国ダイパーリース協同組合連合会加盟

関西ダイパーリース協同組合

〒651-0086
神戸市中央区磯上通4-1-32 ロイヤル磯上502号
TEL (078)242-7991 FAX (078)242-7992

企業一覧

アロー商事株式会社
株式会社 キッタ
株式会社 京宝ベビー
コーベベビー株式会社
山陽ダイヤパーサーヴィス株式会社
サンベビー株式会社
渋谷油脂株式会社
神医協興産株式会社
株式会社東京洗染機械製作所
株式会社 ニック
株式会社長谷虎リネンサービス
株式会社広瀬総合保険事務所
姫路ベビーサービス
株式会社ベビーツワン
山甚物産株式会社
(50音順)